

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語の詫びる表現と感謝を表わす表現
Author(s)	カーラ ワグナー,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1989 : 83 - 87
Issue Date	1990-03-15
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039267
Right	
Relation	



日本語の詫びる表現と感謝を表わす表現

カーラ・ワグナー

外国人の目から見ると、日本人はいつも謝っている。日本語の詫びる表現は非常に多いと思われている。感謝すべき時でも日本人は謝る。例えば、おみやげをもらう際に「ありがとう」と言わずに「すみません」で対応することが多い。それは、聞き手に危害を加えた訳ではなく、ただ日本語の詫びる表現は感謝を表わす機能もあるということである。だから、これから、区別しなければならない時以外は、「詫びる表現と感謝を表わす表現」を「詫び表現」と定義する。この論文では、この一年間広島で集めたデータを基に、日本語の感謝を表わす表現はどの様に詫びる表現に似ているか似ていないかを示す。日本語の詫び表現は非常に多いし、一つの表現はいろいろな機能があるので、ある表現がどんな状態で使われているかということよりも、ある状態でどんな表現が使われているかということが重要である。だから、詫びる表現や感謝を表わす表現を一つずつに分けて分析するのではなく、いくつかの状態に分けて分析することにする。

その前に、「ありがとう」と「すみません」の違いを考えることにする。主な違いは「ありがとう」は「すみません」の様に害や誤りを詫びるためには使えないということである。けれども、「すみません」は「ありがとう」の様に感謝を表わすためにも使えるのである。「すみません」は話し手が親切に値していないと思っている時か親切を期待していなかった時に使われている。(Mizutani (1977)参照)。しかし、実際には、日本人は本当に期待している時でも「すみません」と言うのである。それは、期待してはいけないと思っているからである。

店員は必ず客に「(どうも)ありがとう(ございます/ました)」と言っている。敬語を使う程度は店の位置による。例えば、近くの小さな八百屋では「ありがとうネー！」と言っているのに、デパートでは、絶対に「(どうも)ありがとう(ございます/ました)」と丁寧に言う。けれども、客に釣銭や荷物を出す時に「すみません」と言ったら、とてもおかしいのである。それは、「義務的に"ありがとう"が用いられるという談話構成上の制約が働くこともある。」(熊取谷(1988))なのである。店員は仕事で義務的に「(どうも)ありがとう(ございます/ました)」と言っている訳である。けれども、客はその義務がないので「すみません」とも言える。

(1)店員：「140円のお返しになります。」

客：「ありがとうございました。」

この場合、客の方はもちろんお釣りを期待しているけれど、「すみません」の方が「ありがとう」より丁寧と思っているのである。「すみません」はどのようにして感謝の表現として

「ありがとう」より丁寧であるかということも問題になる。

最初に、「カオ」(face)を説明しなければならない。「カオ」と言うのは、全ての有能な人が欲しがっているものであって、二種類に分けることができる。すなわち、「肯定的カオ」(positive face)と「否定的カオ」(negative face)である。「肯定的カオ」と言うものは「自己を肯定的に評価してもらいたい」と言うことである。¹「否定的カオ」というのは「他からの干渉を受けたくない」ということである。²このため、ある行為は本質的に「カオ威嚇行為」(face-threatening act)と呼ぶことにする。「肯定的カオ」を威す行為と「否定的カオ」を威す行為と言うものもある。その上、主として聞き手の「カオ」を威す行為があるが、本稿では、話し手に対しての「カオ威嚇行為」についてのみ論じることにする。詫びること、聞き手からの賛辞を受け入れること、卑下すること、責めを負うこと、自白することなどは全部話し手の「肯定的カオ」を威すのである。感謝を表示すること、聞き手からの感謝や詫びを受け入れること、言い訳をすることなどは話し手の「否定的カオ」を威すのである。

全ての有能な人間は自分の「カオ」を守ろうとする。けれども、相手の「カオ」を威せば、逆に自分の「カオ」までも威嚇されることになるので、発話者は出来るだけ「カオ威嚇行為」を最小限にとどめるのである。

「カオ威嚇行為」を最小限にするのに、いろいろな計略がある。その中で本稿に関係があるのは、「中和行為」(redressive action)である。つまり、「カオ威嚇行為」を中和するために、話し手は聞き手の「カオ」を威す意向がないことを明らかに提示することである。どの見地（「肯定的」か「否定的」か）が強調されているかによって、「中和行為」の型が変わる。「中和行為」は「肯定的丁寧さ」(positive politeness)と「否定的丁寧さ」(negative politeness)と言う二つの型を持っている。

「肯定的丁寧さ」と言うのは、聞き手に対する「肯定的カオ」をめぐって、話し手を内集団員、仲間、好きな人などのように扱いながら、「カオ威嚇行為」を最小限にするものである。「ありがとう」と言うのは「肯定的丁寧行為」である。それに反して、「否定的丁寧さ」と言うのは、聞き手の「否定的カオ」を満足するために、話し手が聞き手に対して、形式的であり、聞き手のことを妨害する意志がないということを表示することである。全ての詫び表現と感謝としての「すみません」はこの型に当たる。

「否定的丁寧行為」と言うのは、次の理由に従って、「肯定的丁寧行為」より丁寧である。まず、「肯定的丁寧さ」を設定するのに、話し手は聞き手が内集団員になりたいと仮定しなければならないのである。それに反して、全ての人間は干渉を受けたくないということは当然であるので、「否定的丁寧さ」の場合は仮定がないのである。だから、聞き手の感情は明確でなければ、「否定的丁寧行為」にする方が「肯定的丁寧行為」にするよりも安全である。

文化によって、「丁寧行為」の選択が変わる。社会的距離があまり強調されていない文

化では、「肯定的丁寧行為」を選ぶ傾向がある。米国はその例である。しかし、日本の様に社会的距離が非常に強調されている文化では、むしろ「否定的丁寧行為」を選択する傾向がある。それは、「すみません」が「ありがとう」より丁寧だと思われている原因である。

日本では、内と外の関係がとても大切である。だから、普通はほめられたら、卑下して、否認しなければならないが、仲のいい友達にほめられたら、「ありがとう」と言うことも可能である。

(2)日本人：「日本語はお上手ですねえ。」

留学生：「いいえ、まだまだです。」

(3)同級の女子大生：

A：「あ、かわいい！」

B：「ありがとう。」

このように、日本はむしろ「否定的丁寧行為」を選ぶ国として、詫びの慣用表現が多いが、害を謝ること以外にもいろいろな状態で使われている。すなわち、ある詫び表現は感謝を表わす為にも使われているが、あいさつの為、人の注意を促す為、離れる為などにも使われている。部分的に重なる場合は多いが、これから、各々の状態でどの表現が使われているかを簡単に分析することにする。

最初に「すみません」以外に感謝を表わす詫び表現について述べたい。

(4)A：「どうぞ、お掛けになって下さい。」

B：「失礼します。」

この場合、Bは座ることは失礼と思っているかどうか分からないが、「座らせてくださって、ありがとうございます。」の意味を持っている。

(5)A：「先日はどうも失礼しました。」

このAさんはまさか先日に本当に失礼なことをしたのではあるまい。これは、「先日は御馳走様でした。」や「先日は助かりました。」と同じ様な慣用表現である。そして、「どうも」と言うも感謝をしていることを表示しているのである。

次に、あいさつについて述べることにする。

(6)客：「お邪魔します。」

これは余所の家を訪問する時に言うあいさつである。

(7)客：「お邪魔いたしました。」

これは退出する時に使われるが、本当に邪魔をした際にも、「訪問させていただいて、ありがとうございました。」と言う意味を持っている。

(8)電話で：

A：「はい、もしもし。」

B：「はは、お世話になります。」

このBさんの場合、Aさんが、Bさんの声を聞いて、Bさんのことだと分かったと
いて、あいさつの為に言ったのである。実は、これは間違い電話で、Aが私であ
った。その後の会話は次の様であった。

⑧ A：「え？どなた様ですか。」

B：「え？水谷さんではないですか。」

A：「いいえ、違います。」

B：「はい、どうも失礼します。」

また、人の注意を促す時にも詫び表現が使われている。例えば、歩道を歩いている人が
自転車の邪魔をしている場合、乗っている人が丁寧であれば、「すみません！」と
言うのである。もちろん、危険であるのに、黙って、歩行者のそばを通る人も
いるが。そして、先生の研究室に入る前に、生徒達はドアを叩く。先生は「はい」と
言えば、生徒はドアを開けながら、「失礼します」と言う。これは、「先生、忙しい
ところをすみません。」の意味も持っているが、生徒が入ってきたことを先生に
気付かせるためにも言っているのである。そして、余所の家へ行った時に、
ドアで呼び出すために「御免下さい！」と叫ぶのは普通である。注意しなければ
ならないのは、「御免下さい」と「御免なさい」の意味が違うことである。「御
免なさい」は害する時にしか使われていない。呼び出しにはならない。

最後に、別れのあいさつで使われている詫びについて分析することにする。

⑨ ニュースが終わるにあたって

女性アナウンサー：「じゃ、今夜はこれで失礼いたします。」

男性アナウンサー：「失礼します。」

ニュースは時間によって、いろいろな終わり方があるが、「失礼します」もその一つ
である。「ニュースだけではなく、クラブから帰る時、電話を切る時、余所の家を
出る時などでも使われている。「失礼します」は「さよなら」とり丁寧だと思わ
れている。

この論文はまだ非常に不完全であるが、これで終わることにする。帰国したら、
自分の大学の指導教師のもとで、日本語の詫び表現についての論文を続けるつもり
である。

注

¹Brown and Levinson (1987)の解釈による、熊取谷(1988)が翻訳した引用文である。

²ibid.

参考文献

Coulmas, F. 1981. "Poison to Your Soul." Coulmas, ed., Conversational Routine.
The Hague: Mouton, pp.69-91.

Brown and Levinson. 1987. Politeness: Some Universals in Language Usage. London:
Cambridge U.P.

熊取谷哲夫. 1988. 発話行為理論と談話行動から見た日本語の「詫び」と「感謝」『広島
大学教育学部紀要』第2部 第37号別刷.

Mizutani, O. and N. Mizutani. 1977. Nihongo Notes 1: Speaking and Living in
Japan. Tokyo: The Japan Times, Ltd. pp.104-105.